

砂川市耐震改修促進計画の目的

平成 7 年 1 月の阪神淡路大震災、平成 7 年 7 月の北海道南西沖地震、平成 15 年 9 月の十勝沖地震、平成 16 年 10 月と平成 19 年 7 月に発生した新潟県中越沖地震など、近年、人命が失われ、建築物等も大被害を受ける大地震が頻発しています。

しかし、本市では、実際の大地震による大きな被害を受けていないこともあり、住宅や建築物の耐震化に対する市民の関心が低いと思われるため、住宅・建築物の耐震化の状況等について把握するとともに、耐震化に対する市民の意識向上と普及啓発のために必要な情報提供や支援等の仕組みを検討し、市民の理解・普及のもとで、住宅や建築物の「耐震性」の向上に取り組んでいく必要があります。

砂川市耐震改修促進計画は、平成 18 年改正施行された「建築物の耐震改修の促進に関する法律（以下、「耐震改修促進法」という。）」第 5 条第 7 項に基づき、「北海道耐震改修促進計画（平成 18 年 12 月）」を踏まえ、地震による人的被害・建築物被害を減少させるために市内の住宅・建築物の耐震診断及び耐震改修を促進することにより耐震性の向上を図り、安心して安全なまちづくりに資することを目的とします。

計画期間は、国及び北海道の計画との整合性を図るため、平成 20 年度から平成 27 年度までの 8 年間とします。なお、社会情勢の大きな変化などにより、本計画の見直しが必要となった場合には、適宜見直すこととします。

砂川市における想定地震

砂川市に影響の大きい地震として、国・北海道により、「海溝型地震」と「内陸活断層の地震」の 2 種類が想定されています。

【海溝型地震】北海道地域防災計画で想定している 6 つの地震と、国の中央防災会議の専門調査会で北海道に揺れによる建物被害発生を予測している 2 つの海溝型地震をあわせた 8 つの地震のうちで、砂川市に最も影響が大きいと想定される地震は「十勝沖・釧路沖の地震（M8.2）」で、揺れの大きさは主に震度 5 弱（最大計測震度 4.5）と予測されています。

【内陸活断層の地震】国の地震調査研究推進本部で想定している内陸活断層による地震のうちで、砂川市に最も影響が大きいと想定される地震は「沼田－砂川付近の断層帯による地震（M7.5）」で、揺れの大きさは主に震度 6 強（最大計測震度 6.5）と予測されています。

◆砂川市における想定地震

砂川市が大きく揺れる想定地震		十勝沖・釧路沖の地震 (海溝型地震)	沼田－砂川付近の断層帯による地震 (内陸活断層の地震)
地震の規模		M8.2	M7.5
砂川市での揺れの大きさ	震度階級	震度 5 弱	震度 6 強
	計測震度	計測震度 4.5	計測震度 6.5

※「砂川市での揺れの大きさ（震度階級・計測震度）」は、北海道地域防災計画や国の中央防災会議、地震調査研究推進本部等において想定されている地震に基づく推計値です。

※「砂川市での揺れの大きさ（震度階級・計測震度）」は、市役所庁舎周辺の揺れの大きさを示しています。

※「沼田－砂川付近の断層帯による地震」の計測震度を 6.5 と表記していますが、小数点第 2 位の四捨五入による数値であり、最大値は 6.49。これは震度階級として「震度 6 強」に該当します。